「カシーナ」と脳内芸術



高野敦志

目次

はじめに

以前、ブレインマシーンの「カシーナ」について、ブログで解説したことがあるが、今回、「カシーナ」のユーザーや、「脳内芸術」の世界に関心のある方向けに、『「カシーナ」と脳内芸術』というタイトルで、小冊子の形にまとめることにした。
ブレインマシーンの開発は、作家のウィリアム・バロウズWilliam Burroughsが光の点滅によって幻像を見るための「ドリームマシン」を考案したことに始まるという。日本では一九九〇年頃に、八幡書店から発売された「メガブレイン」が一世を風ふう靡びした。ここでは「カシーナ」を使用する際の参考になるような、実用的な冊子を目指したつもりだが、関連する情報や使用した印象などは、適宜含めることにした。

二〇一六年五月六日

追記

今回、《Journey to the Sun》《528ヘルツＣＤ》《レムリアの記憶》を加えた。

二〇一八年七月二十八日

髙野敦志

ブレインマシンの「カシーナ」

ブレインマシーンの「カシーナ」は、アメリカのMindPlace社が開発した脳波誘導装置である。ゴーグルの点滅とパルス音を、一定の周期で発することで、脳波を所期の状態に導くとされる。それによって、万華鏡のような光の乱舞や、明晰夢も見られるようになる。その点、かつての「メガブレイン」や、「スターゲイザー」の発展した形と言える。

コンパクトであり、携帯性があるばかりではない。光のパターンなどの機能面でも、グライダーからジェット機ぐらいの進化が見られる。「カシーナ」には、いくつものモードが用意されている。

SpectraStrobeセッションは六つの光制御信号で、赤、緑、青のLEDを点滅させる。LEDの種類が増え、信号も複雑化したことで、微妙な光のニュアンスも表現できるようになった。それは「加速」「瞑想」「脳内芸術」「夜の旅」「活性化」「トランス」の六種類の用途に分けられる。それぞれの用途には、数個から十前後のプログラムが用意されている。これだけで数十種類の楽しみ方ができるのである。

AudioStrobeセッションは、信号が二種類という点で、従来のブレインマシンの形式を継承しているが、LEDの色が増えたことで、はるかに多様な刺激を与えられるようになった。SpectraStrobeと比べてシンプルであるが、それだけダイナミックな体験をさせてくれる。これには六種類のプログラムが用意され、カラーセットを変更することで、同じプログラムでもニュアンスが変わる。別売りのＣＤを買うことで、さらに多くの体験も可能となる。

KASINA BASIC SESSION(KBS)は、学習、ピーク・パーフォーマンス、静寂、幸福などをテーマとした二二種類のプログラムから成っている。パルス音しか録音されていないので、外部の音楽とミックスすることで、好きな曲で瞑想したり、気力を養ったりといった効果が得られる。本人の趣味に合わせたセッションを、楽しむことができるのである。

　Color　 Organモードは、好きな音楽を流して、低周波音域を青、中周波音域を緑、高周波音域を赤で表示する。音を光で表示することで、音を見るという体験を可能にする。フランスの詩人ボードレールの「万物照応」Correspondances　の世界みたいだが、極端に音量が変化する曲では、LEDがきれいに発光してくれない。音楽のインパクトを光で確かめたい、ミュージシャンには人気が出そうな機能である。

　それ以外に、八幡書店から「カシーナ」を購入した場合、拡張したプログラムも組み込まれている。その中で特にお勧めなのがMEGA、これはかつて武田崇元氏が開発した「メガブレイン」というブレインマシンを、「カシーナ」上で、ソフトウェアという形で再現したもの。
「メガブレイン」の特徴は、とにかくぐいぐいと引っ張っていく迫力。「カシーナ」の繊細さだけでは満足できない、かつての「メガブレイン」愛好者には、絶対に見逃せない機能である。これもパルス信号しか組み込まれていないので、お好みの外部音源と組み合わせて楽しめる。その点では、KASINA　BASIC　SESSIONと同様の使い方である。
　古神道の書籍を多く出版している八幡書店が、出口王お仁に三さぶ郎ろうの祝詞のりととアンビエント風の音楽、それに「カシーナ」を発光させる信号をミックスしたもの、ベートーヴェンの『運命』やポップスに信号をミックスしたものも、現時点では付属として収録されている。
　それ以外に、二千円プラスすることで、古神道の祈りをイメージした石笛の曲と、発光させる信号を組み込んだプログラムも追加される。王仁三郎の祝詞や石笛の曲は、かつてスターゲイザー用にプログラミングされていたのを、SpectraStrobeの方式でプログラムを打ち直したもの。
　このように、無限の拡張性を備えた「カシーナ」は、精神世界に興味があったり、ストレス解消、創造性開発に関心がある人には、大きな福ふく音いんとなるだろう。外界と同様に精神世界にも、大

きな価値を発見するに違いない。ただし、てんかんや心臓病の人、ペースメーカーを埋め込んでいる人、 精神を病んでいる人は使用を避けること。

　ブレインマシンの「カシーナ」の最大の特長は、拡張性があるという点である。自分の好みのアルバムをパルス信号に組み合わせるなら、八幡書店のMEGAがお勧めである。リラックスしたいなら、MEGA8の「シューマン共鳴」がいい。地球が発する波動に、心身を同調させることができる。MEGA9の「アストラル・トリップ・トレーニング」は、いわゆる「幽体離脱」を促すもので、強力で意識が飛びそうになる。実際に体験できるかどうかは、人によって差が大きいだろうが。MEGA15の「ドリーム･コースター」は、多彩な曼まん荼だ羅ら模様が激しく回転し疾走する。目が回りそうになるので、ブランコに乗っても酔う人には無理かもしれない。MEGA16の「ドラッグ・ビジョン」はサイケデリックなビジョンを喚起する。回数を繰り返せば、回転する渦が少しずつ色づいてくる。MEGA15とMEGA16に関しては、別売りのゴーグルDeepVisionを用いれば、目を開けた状態で極彩色の世界を楽しめる。

　外部音声と組み合わせる場合、どうしても元の音が小さくなってしまう。携帯端末で音楽を出力する場合、端末側は最大限にボリュームを上げておいて、カシーナ側で音量を調節するようにした方がいい。パソコンからUSBで音楽を出力する場合、DACのヘッドフォン差し込み口ではなく、OUTから出力し「カシーナ」のAUXに接続し、「カシーナ」にはヘッドフォンをつなぐといい。
　さて「カシーナ」の制御モードには、SpectraStrobeとAudioStrobeの形式があるわけだが、微妙な色合いを表現できるSpectraStrobeに対し、ユーザーがカスタマイズできるのは、AudioStrobeの方である。AudioStrobeはKasinaBasicと同様に、赤・青・緑のLEDの組み合わせが十六種類あるので、再生しながら最適の組み合わせに変更できるのである。例えば、癒やしを求めるなら、Color Set 5の緑と青の組み合わせがいい。

Mindplace Audiostrobe Collection

Mindplace社のブレインマシン　「カシーナ」は、日本では八幡書店が、「メガブレイン」や古神道関連の拡張プログラムを搭とう載さいして販売している。それをさらに拡張するＣＤ７枚セット《Mindplace　Audiostrobe　Collection》も購入したので、「カシーナ」で音と光の体験をしてみた。

購入したＣＤは、まずiTunesでmp3に圧縮した。この際気をつけなければならないのは、iTunesの形式であるAACには対応していないという点、mp3に変換する場合に、圧縮しすぎると可聴音域外に埋め込まれたAudiostrobeの信号が削除されてしまうという点である。ＣＤに取り込む前に、iTunesの設定を変更して、mp3　320kbpsで、通常のステレオとし、ＣＤの読み込み時にエラー訂正を使用するにチェックを入れる。

「カシーナ」へ転送するには、上部のUSBとパソコンのUSBをコードでつなぎ、「カシーナ」のUSBモードを選択すると、パソコンから「カシーナ」の内部が見られるようになる。音声ファイルをパソコンから「カシーナ」本体に、コピーすればいいのである。

ジェフリー・トンプソン博士の《心の眼が見る夢》**Dreams　in the Minds Eye**

７枚のＣＤセットのうち、どのタイトルがお勧めだろうか。僕だったら迷わずジェフリー・トンプソン博士の《心の眼が見る夢》Dreams in the Minds Eyeを選ぶだろう。七枚のうちで比較的光の万華鏡が現れやすい。瞼の裏に見える幾何学的な形が、神秘的な色を伴う感覚をつかみやすいということが挙げられる。さらに脳波の誘導が巧みで、変性意識に容易に脳を誘導する点である。

１曲目のSummer　Shadowsはおだやかに意識を導く程度で、瞼の裏側に現れた模様を楽しんでいればいい。２曲目のSky Showerでは青空に身を投げ出すように、意識が深みに吸い込まれていく。恐らくシータ波に誘導され、目覚めと眠りの境界域に達する。

３曲目のChild Of A Dreamでは、せせらぎに沿って、小鳥のさえずりに耳を傾けながら、森の中を歩いている感覚である。意識は夢見に近い状態にあるので、かつて訪れた場所や思い出を想像してみよう。当時見た光景のありのままが再現されるのに驚くだろう。

Norman Durkeeの《音の幻像》Audio Illusions

次にお勧めなのが、Norman Durkeeの《音の幻像》Audio Illusionsである。１曲目のFollow The Mothは、空飛ぶ蛾を追いかけていくという趣向。街中の喧けん噪そうに身をゆだねる感覚で、人々の笑い声、馬車が石畳の道を行く音、コンサート会場での歌声など、我々が何気なく聞き流している音のコラージュ。

２曲目のSong Of The Sunは、どこまで続くか分からない、息の長いシンセサイザーと女性のハミングが、意識を深層へといざなっていく。３曲目のNorthern Lightsはオーロラをイメージしているのか、夜空をくねる神秘の光を思わせる音の響きに、魂の静寂が感じられる。

４曲目のSpiral Dreamは、らせん状の夢というタイトルで、意識の奥深くに眠っていた、懐かしい記憶を呼び覚ましていく。三十分弱の穏やかなメロディーである。このアルバムも、可聴音域外に埋め込まれた信号が、懐かしい幻像を浮かび上がらせる。

Richard Moffettの《チベットの高原》Tibetan Highlands

このアルバムはリラクゼーション効果が高い。酸素の薄い高地で、突き抜ける青空とまばゆい光を浴びていると、人は自身の感覚が夢のようなものであると感じる。チベットを旅した時の、あの感覚を思い出させてくれる。

１曲目のSoul Of The Mountainは、息の長いシンセサイザーと、エコーのかかった異界のコーラス。天上の世界を想起させる女性の歌声と、チベット僧の読ど経きょうを思わせる、腹の底を震わす低音が響き合う。懐かしい記憶が脳裏をよぎるうちに、魂は空の世界に溶け込んでいく。

２曲目のTemple Timbresは、チベットの民族楽器、シンギングボ

ウルを用いた瞑想音楽。仏壇の御鈴のようなものだが、チベットのシンギングボウルは、打っても霊妙な響きを出すが、縁をこすって倍音を響かせると、意識を一定の周波数に同調させる効果がある。瞑想する場合は、心を空しくしてひたすら音に耳を傾ける。その響きは身体の内部に潜むチャクラと共鳴を始める。

Prem Das & Murugiの《シャーマン～太鼓の旅》**Journey of the Drums**

シャーマンは太鼓を叩たたいて踊り、神がかり状態になって霊界と通信する。自身の種族と密接に関わる動物の精霊と、一体化するために、野性の叫びを上げながら踊り続ける。シベリアや北米の先住民の宗教では、シャーマニズムが重要な役割を担っている。

Prem　DasとMurugiの演奏によるドラムと祈りを収めた《シャーマン～太鼓の旅》Journey of the Drumsは、シャーマンの神がかりの感覚を、呪術的なリズムと祈り、Audiostrobeの光の世界で擬似的に体験させてくれる。神がかった歌声とドラムに、「カシーナ」はまばゆく反応し、無我の陶酔の世界にいざなっていく。

前半は鳥のさえずりに始まり、軽快なリズムと祈りの歌が響き合う。激しい息づかいは、過呼吸による陶酔を想起させる。腹に響くような低音の太鼓の連打が、意識をうねるリズムで満たしていく。後半に入ると、脳波はシータ波に移行し、まどろみの状態で意識は世界と一つになる。

Tamas研究所の《ブレインスキャン》**Brain Scan**

脳波の周波数は、脳の活動状態を示す指標となる。ベータ波は12Hz以上で、意識を集中した思考活動がなされている場合に現れる。アルファ波は8～13Hzでリラックスした状態。シータ波は8Hz～4Hzでまどろみの状態、レム睡眠で夢を見ている状態を表す。デルタ波は1 Hz～4 Hzで熟睡の状態、ノンレム睡眠の状態で現れる。

脳波と脳の活動状態に、そのような相関関係が認められるなら、脳の周波数を変化させてしまえば、脳の活動状態もコントロールできると考えられる。バイノーラル・ビートの方法では、左右から異

なる周波数の音を流し、脳がうねりを中和させようとして、左右の周波数の差に相当する脳波の状態に移行する。

アイソクロニックの方法では、等間隔のパルス音を聞かせることで、その周波数に脳波を誘導しようとする。バイノーラル・ビートと違って、ヘッドフォンを使用する必要がないが、パルス音が音楽の美しさを損なう恐れがある。また、光の点滅する周期から、脳波を誘導できることも分かっており、光と音の刺激を用いる「カシーナ」の場合は、より大きな効果が期待できるわけである。

Tamas研究所の《ブレインスキャン》Brain　Scanは、３Ｄ録音による音と、Audiostrobeによる光の点滅によって、容易に脳波の誘導を行ってくれる。ベータ波ではうねるような音源が、仮想的に８の字を描くように移動し、脳の覚醒を促していく。アルファ波では汀なぎさの波音と、等間隔のパルス音が重なって、リラックス効果をもたらす。シータ波はパルス音に加えて、雨音などをブレンドしている。ゴーグルの点滅を見つめるうちに、眠ってしまうかもしれない。夢見に近い状態なので、ある場面を想像すると、細部までがありありと見える。

Andrzej Slawinskiの《水の惑星》Water Planet

水は生命の源である。天体の中に水が存在するか否いなかで、生命の可能性が論じられる。穢けがれた心身を水で清めるというのも、民族を越えた普遍性を持っている。

Andrzej　Slawinskiの《水の惑星》Water　Planetは、氏がリリースした曲の中から選りすぐったアルバムだという。ちょっと聴くと、環境音楽らしい刺激を抑えた創りになっているが、聴いていくうちにぐんぐん引き込まれていく。Audiostrobeの発光もなかなか迫力がある。

１曲目のWater　Wheelは噴き出す水音に、謎めいたメロディーを重ね合わせたもの。答えのない質問が、日常の瑣事から引き離して、心の奥のイメージを浮かび上がらせる。２曲目のBoats　of　the　Ancestorsは、一転して海辺の潮しお騒さいの世界である。心はすでに意識と無意識の境界を漂っている。３曲目のSurf　Danceでは、大

波が打ち寄せ崩れ去る音に、意識を賦ふ活かつするリズミカルなメロディーが重なる。水の持つ力動性が強調され、心の変容を促す刺激に浸ひたされる。４曲目のIn the Court of Poseidonでは、大波の波動は背後に退き、意識は海中へと引き入れられる。繰り返される打音を、額の奥にある魂の目に響かせていこう。やがて聞こえてくる男性の低音は、ポセイドンの歌声なのだろうか。

Janusz Slawinski博士の《レクイエム》Requiem

人は死ぬときにどのような体験をするか、僕がチベット仏教に惹ひかれたのもそのためだった。古派ニンマ派には埋蔵経という経きょう典てんがある。行ぎょう者じゃの神秘的な体験を記したもので、後世に発掘されたという形を取っている。インド伝来の経典ではないから、いわゆる偽経に分類されるのだが、価値自体が損なわれるわけではない。『チベットの死者の書』には、具体的な死の経過がありありと描かれており、心理学者のユングも人間の深層心理を反映するものとして高く評価している。

Janusz　Slawinski博士の「レクイエム」Requiemは、酵母が死ぬときに発する光を、生物学的に測定したデータに基づいているという。もし「カシーナ」付属のゴーグル以外に、目を開けて光の体験ができるゴーグルDeepVisionもお持ちなら、そちらで試されるといい。目を開けたままだとかなりまぶしいから、時折開ける程度か、半眼にするといいだろう。微かに色が感じられるくらいがベストである。

ゴーグルとヘッドフォンをつけて、いよいよセッションが始まる。教会で葬送されているような、悲しいメロディーが聞こえてくる。この世ともこれでお別れかという気持ちになる。天上の歌声のようでもあるが、やがてそれが死んでゆく人々の声に聞こえてくる。自分だけが死ぬのではない。今、この瞬間にも死につつある人が大勢いるんだと感じる。心強いような、覚悟を迫られたような気分になる。すでに手足の感覚はなくなっている。

やがて、変調を起こしたような、耳障りな音が迫ってくる。自分が壊れていく感じだ。いよいよ、意識も失われていくのか。子供の

頃の自分の姿が頭をよぎった。こうやって一人の人間が消えていくんだな。
　あとはなすがままになるだけで、気がつくとアルバムの前半Requiemは終わっていた。続けて後半のBeyondを体験する。もはや苦く悶もんの印象はなかった。意識は失われていくが、すうっと眠るような感覚しかない。セッションが終わったところで目が覚めた。

《Journey to the Sun》

ブレインマシンの「カシーナ」は、左右の耳からの脳波誘導に、ゴーグルの光の点滅による視覚からの脳波誘導を組み合わせたものである。カシーナは拡張性があるので、さまざまなプログラムを楽しむことができる。原理としては、mp3形式のファイルにゴーグルを点滅させる信号が打ち込んである。圧縮していない音声の場合は320kpsで圧縮すれば、脳波誘導の信号は削除されない。

今回紹介するDominique Nelisの《Journey to the Sun》は、SpectraStrobe形式なので、「カシーナ」以外のブレインマシンでは正常に作動しない。このプログラムはディーパック・チョプラのサイトなどで販売されている。

太陽に向かって発射されるロケットに搭乗する体験をシミュレートしたもので、NASAで録音された音声を使用しているので、余りの迫力に圧倒される。秒読みが始まると、もう逃れられないという緊張感が走る。噴射する火炎と轟音が伝わるとともに、反応する光がけたたましく点滅する。聴覚と視覚がシンクロしているのである。それとともに、脳波誘導による効果で、奇妙な浮遊感を覚える。宇宙空間を高速で進んでいく感覚は、何度繰り返しても圧倒される。

なお、このアルバムにはほかに、血管の脈動をイメージしたミニマム・ミュージックのRunや、シャンソン風のMontmartre、水をイメージした弦楽のAquaが収録されている。

《龍旋幻夢》

「カシーナ」とはMindPlace社の脳波誘導マシンで、日本では八幡書店が独自のプログラムを組み込んで販売している。二〇一五年（平成二七）十二月にインターネットの「ドミューン」で、「メガブレイン」の開発者武田崇元氏が出演する特集が組まれ、ユーザーの一人として参加させていただいたことがある。
「カシーナ」は点滅する光と脳を刺激する信号音で、脳波をくつろぎの状態のアルファー波や、夢見心地のシータ波に誘導する。従来のAudioStrobeの形式は他社の脳波誘導マシンと互換性があり、インパクトのある刺激が特徴であるが、「カシーナ」はMindPlace社が開発したSpectraStrobeの形式にも対応し、より繊細な表現に向いている。
　武田氏が開発した「メガブレイン」は、強力な脳波誘導で一世を風靡したが、八幡書店版の「カシーナ」はそれをソフトウェアの形で再現しており、学生だった自分には手の届かなかった高価なマシンのプログラムを、コンパクトな筐きょう体たいの中に組み込んでいるのである。かつての「メガブレイン」は、脳波誘導の光と信号音を発するもので、ユーザーは好みの音楽とミックスして楽しむことができたが、バーチャルで再現されたプログラムも、使い方は基本的に同じである。

　今回発売された《龍旋幻夢》は、武田氏が開発したもので、「メガブレイン」に見られる強力な脳波誘導の効果を、SpectraStrobeの繊細な光の表現、バイノーラル・ビートとモノラル・ビートを組み合わせた「ハーモニックボックスＸ」という強力な脳波誘導信号で実現したものだという。ブレインマシーンが視覚と聴覚の両面で大きく進化したのを実感した。
「カシーナ」のゴーグルには付属品の他、目を開けて光を体験するDeepVisionという別売りのゴーグルがある。目を閉じて用いる従来のゴーグルは、リラックス効果があり、意識を深い状態に誘導する

効果が高い反面、繊細な光の動きをつぶさにとらえることはできない。DeepVisionでは万華鏡のように動く光の動きを、逐ちく一いち目にすることができると同時に、半眼にすることで、脳裏の深層イメージを導き出すことができる。SpectraStrobeの光を十全に体験するには、従来のゴーグルよりDeepVisionの方が向いているわけで、「龍旋幻夢」の体験をより迫真性のあるものにしてくれる。

１曲目のDragon Risingは、絶え間なく上昇する音楽と信号が、眼前に青い龍の鱗うろこを思わせる模様を描き出す。龍神が天に昇っていくような神々しさや、畏い敬けいに似た意識を呼び起こす。息をつくいとまもない迫力である。

２曲目のHevenly　Relaxは一転して、夏の日の仮眠をイメージした作品。せせらぎとウィンドチャイムが聞こえ、深い安らぎを感じさせてくれる。疲れやストレスがたまっている時に使うといい。

３曲目のHi　Energy　Gateはビートの利いた音楽と、目まぐるしく変化する光と、脳波を誘導する信号を組み合わせたもので、ダイナミックな力とくつろぎを交互に感じさせてくれる。

《528ヘルツＣＤ》

幻想的な光と音による脳波誘導で、夢見心地へいざなう瞑想マシン「カシーナ」のアルバムで、「龍旋幻夢」に続く武田崇元氏によるプログラムである。今回は癒しがテーマとなっている。

グレゴリオ聖歌が崇高な世界を想起させ、救いの光に包まれるような意識に導くのも、音楽に使われる音の周波数が関係している。ヨーガなどの秘教では、脊髄に沿った位置に「チャクラ」と言われる生命エネルギーの集積所があると説く。主要なチャクラは７つあり、固有の周波数で振動している。対応する周波数の音を聴いたり、正しい音程でマントラ（真言）を発することで、チャクラの振動は増幅され、エネルギーが充填されていくとされる。

人間の心身にプラスの影響を与える周波数を、総じてソルフェジオ周波数という。そのうち528ヘルツは、太陽神経叢にある「マニプラ・チャクラ」に対応し、DNAを修復する力があるとされる。現代人は多くのストレスにさらされ、さまざまな化学物質によって、DNAが傷つけられている。このアルバムを聴くことによって、それを癒す効果が期待されるが、「カシーナ」を使用することで、聴覚と視覚からの相乗的な効果がもたらされる。

冒頭の曲名であるSEDONAは、アメリカ合衆国アリゾナ州にあるパワースポットである。先住民の聖地とされ、侵食が進んだ赤い大地が渦巻状の円柱と化し、奇岩の間を縫って進む谷川からは大自然の気が発している。プログラムはあなたを、「セドナのせせらぎ」へといざなう。水音とともに音叉が聞こえるので、岩の上で瞑想する自分を想像してみよう。眼前に現れる光の輪は、呼吸するように収縮と拡張を繰り返す。

やがて、大地の底から地響きとともに、噴火が始まる。それはあなたの会陰に眠るクンダリーニが覚醒し、脊椎を貫通して頭頂へ抜けるさまを想起させる。天上からは祝福する女神のハミングが聞こえてくる。眼前の光の輪は、震動とともに目まぐるしく点滅する万華鏡となる。

2曲目のDream　Beachは、満ち干を繰り返す波音が聞こえる。ミニマル系のメロディーとともに、あなたを急激に深い世界へと誘導する。日々の疲れは癒され、知らぬうちに眠りに落ちていく。

3曲目のWater　fallは、荘重な電子音楽と滝の音を重ね合わせたもの。勢いよく注ぐ滝壺の上を、ウグイスの谷渡りが響く。山岳信仰では滝に打たれて身を清めるが、あなたは今流れ落ちる音の中にいる。心が鎮まるにつれて、岩肌を磨く清水のしぶきも見えてくる。心身一如の境地に至ることで、傷ついたDNAも修復されていく。

《レムリアの記憶》

　レムリアというと、動物学者フィリップ・スクレーターが提唱した、インド洋上の仮想の大陸を思い浮かべるかもしれない。それが五千万年かけて、インド南部、マダガスカル島、マレー半島に分断されたというのだが。
　ここで言うレムリアとは、神智学のブラヴァツキー夫人が説いたもので、太平洋上にあった巨大な大陸が、地殻変動によって水没したとされる。それはムー大陸と呼ばれるではないかと思うかもしれない。いずれにしても、太平洋上に霊的に進化した大陸があったと、一部の人たちに信じられてきたのである。
　霊的に進化したレムリア人は、脳の一部しか使用していない現代人とは異なり、脳をフル稼働させて、テレパシーで相手に想念を伝えることもできたという。これは右脳と左脳が同時に活性化した状態で、左右の耳から異なる周波数の音声を流したり、ゴーグルの点滅の速度を調整したりして、脳波を誘導することで可能となる。
《レムリアの記憶》は武田崇元氏がプログラムしたもので、「甦よみがえるレムリア」「レムリアン・シード」「レムリアの記憶」の三部作で構成されている。「甦るレムリア」では、海の中へと潜るとともに、イルカの鳴き声が聞こえてくる。これは海中の楽園世界を想起させるとともに、水没したレムリアへの旅であり、「カシーナ」を装着したあなた自身の、心の深層への回帰でもある。
「レムリアン・シード」はレムリアの種という意味。いきなり、静謐せいひつなピアノの音が響いてくる。あなたはすでに、深い瞑想状態に入っている。その証拠に、目の前をイメージがよぎったりしないだろうか。両手・両足の力がすべて抜けて、精神は目覚めながら、肉体は眠りについているのである。
「レムリアの記憶」では、銅鑼どらの音が鳴り響いた後、抒情的なメロディーが流れてくる。せせらぎの音に気づいたあなたは、レムリアの世界に戻ってきており、海中に没する以前の楽園にいる。ということは、失われたと思われた能力も、あなたの内部で眠ってい

たということ。肉体から自由になったことで、時間と空間という制限にとらわれていない。ここでは、心で思ったことが単なる空想ではなくなり、望むことが実現する創造の場に臨んでいるのである。

DOMMUNE「ブレインマシン・エンサイクロペディア」

二〇一五年（平成二七）十二月一日、インターネットテレビ「ドミューン」で、八幡書店代表武田崇元氏がブレインマシン開発のエピソードを語る番組、「ブレインマシン・エンサイクロペディア」が放送された。ヘビーユーザーとして、武田氏に声をかけられた僕も、番組に出演させていただいた。

武田氏の開発された伝説の名機「メガブレイン」は、武田氏が自負されておられる通り、世界最先端の機能を持っていた。そのプログラムのうち、現存していたものは、今回発売されたブレインマシン「カシーナ」の拡張機能として、ソフトの形で搭載されている。そのインパクトの強さは、「カシーナ」の拡張機能で試した僕自身も実感した。「カシーナ」をアメリカから直輸入したら、大いに後悔することになるだろう。八幡書店版の拡張版「カシーナ」でなければ、「カシーナ」に移植された「メガブレイン」を体験できないからである。

かつての名機「メガブレイン」の特徴は、音楽はすべて外部入力として、武田氏の組んだプログラムと、本体においてミックスされるという点にあった。これは「カシーナ」に移植されたソフトとしての「メガブレイン」でも同じである。ゴーグルを点滅させる以外に、カチカチという等間隔の音が聞こえるが、これは脳波誘導のためのアイソクロニックという技術が用いられているからだそうだ。

メガブレインは当時十五万円もした。貧乏な学生だった僕には、とても手が届くものではなかった。実際に僕が購入したのは、ヘンリー川原氏が開発された「スターゲイザー」からである。川原氏のアイデアで、ゴーグルを発光させる信号は、人間の可聴音域の下、低音部に打ち込まれ、音楽と一体化することとなった。

残念なことに、川原氏とはコンタクトができない状態が続いているらしく、かつて八幡書店で発売された川原氏の作品《ドルフィン・フロー》などに、どんな信号が打ち込まれていたかは不明だということ。川原氏の作品の「カシーナ」への移植は困難と見られ

る。
　拡張性の高い「カシーナ」は、Audiostrobeという、他の機種との互換性が高い信号にも対応している。なお、Audiostrobeの場合は、「スターゲイザー」とは反対に、可聴音域の上、高音部に信号が打ち込まれているということである。武田氏が注目したのは「カシーナ」の拡張性であり、「メガブレイン」の機能をプログラムとして組み込んだり、「スターゲイザー」用の古神道のプログラムも、「カシーナ」用に編集し直すことが可能になったのである。

　当日、番組で僕が何を話したか。ユダヤ神秘主義の「カバラ」の修行に用いられる「閃ひらめく色彩」を持参して説明した。オレンジ色と緑色など、補色で描かれた図形は、しばらく見つめていると、輪郭がちらちらするようになり、補色を逆転した形で壁に投射することができる。壁に映っているかのように、現実にはあり得ない色を、視覚の特性を利用して見るのである。
　チカチカ閃くというところに鍵がある。例えば、ゴーグルを用いずにブレインマシンの機能を、ビデオで実現したのが、コンラッド・ベッカーの《トランスフォーマー》である。画面が目まぐるしく点滅するさまを眺めていると、パステルで描かれたような単純な絵が浮かんでくる。
　こうした映像は、意識が眠りと覚醒の中間状態に陥ったときに見られる。脳波がシータ波になるのは、夢を見ている間や、眠りに落ちる瞬間である。後者は「入眠時幻覚」と呼ばれる現象である。ゲーテは花が開花するさまを、ありありと目にすることができたというが、この種の能力に長たけてくると、イメージは現実のように動き出す。意識を保ちながら、無意識のイメージを視覚化することを、心理学者のユングは「能動的想像」と呼んだ。それによって、ユングは多数のマンダラを描いている。
　その後、「スターゲイザー」と「カシーナ」の大きな違いについて、武田氏と語りながら説明していった。それは「カシーナ」における大幅な軽量化、多数の音源の内蔵化、プログラムの拡張性、Audiostrobeという共通の信号による互換性である。新開発の信

号、Spectrastrobeによる繊細な光の体験も可能となった。ただし、個人的な印象では、Audiostobeやソフト版の「メガブレイン」の方が迫力がある。

当日は新開発のゴーグルDeepVisionを、僕自身が番組内で体験した。目を開けたままで映像が見られる新製品は、既存のゴーグルに比べて、美しさと迫力の点で数倍上である。１分以内に意識や視覚に変化が現れる。

本人がアート全般に造ぞう詣けいが深いなら、「カシーナ」による体験も、より深いものとなるだろう。サイケデリックな画像を多数見ておくとか、Winampに搭載されたビジュアリゼーションMilkDropなどを事前に眺めておくとか。

最後に、ヴィジョンを体験した芸術家として、十九世紀フランスの詩人ジェラール・ド・ネルヴァルを紹介した。遺作となった『オーレリア』には、生々しい幻覚がたくさん描かれている。地球が軌道を外れてしまい、黒い太陽が現れて、神さまである太陽が死んでしまったと思い込んだり。数々の試練を経た末に、ネルヴァルは救済されたという確信を抱く。

私はまことに甘美な夢から覚めた。それは、かつて私が愛していた女性が、姿を変え光り輝いているのに再会するという夢だった。空はすっかり栄光につつまれ、そこに私は、イエス・キリストの血で記された「赦免パルドン」という言葉を読みとった。その時突然一つの星が空にまたたき、この世と他のさまざまな世界の秘密を私に洩らしてくれるのだった。

（ネルヴァル『オーレリア』稲生永訳）

ネルヴァルは最後に、パリの裏町で縊い死しすることになるが、そこに描かれた魔術的なヴィジョンは、この種の世界に漠然と惹かれる人間には衝撃的だろう。

追記

「ブレインマシン・エンサイクロペディア」は、二〇一五年（平成二七）十二月一日午後七時から九時まで、インターネットテレビの「ドミューン」で放送された。
　出演者は武田崇元（八幡書店代表）、野々村文宏、宇川直宏他。

カバラの「閃く色彩」とブレインマシン

西洋魔法のカバラで重視されるのは、仏教の曼荼羅に相当し、神と世界との関係を示す「生命の木」であるが、入門者の修行に用いられる図としては、「閃く色彩」が有名である。これはオレンジ色と緑、黄色と紫など、補色の関係にある二色の図を凝視し、しばらくして白い壁を眺めると、互いの色が反転した形の図形が映し出されるという。生理的な現象を活用して、意識を夢見る状態に導くための技法である。

現実には存在しない色や形を、目覚めながら観想することで、無意識のイメージをとらえた上で、それを意識でコントロールする覚醒夢に転換し、大地・水・火・風といった、世界の構成原理の秘儀への参入を目指すのである。

心理学者のユングは、睡眠に入る直前に、意識を保ちながら幻を見る現象を、「入眠時幻覚」と呼んだ。それを意識的に行うことを「能動的想像」と名づけた。ユングはその技術に長けることで、多数のマンダラを残しているが、それを会え得とくしていた過去の芸術家としてゲーテを挙げている。意識的に花を想像し、それを開花させるなど、動的なイメージの生成も可能だったという。

脳波の種類で言えば、リラックスした状態のアルファ波から、覚醒と睡眠の中間状態であるシータ波に移行することで、この種の映像は目にすることができる。水晶玉の占いなども、こうした「能動的想像」をとらえることであり、それが無意識のイメージを反映していたとしても、自他の運命を象徴しているかどうかは定さだかではない。

脳波を強制的にシータ波に導く方法としては、左右から異なる周波数の音を聞かせ、二つの周波数の差である周波数に、脳波を同調させるバイノーラル・ビートなどの技法があり、モンロー研究所のヘミシンクなどが有名である。携帯端末に接続したヘッドフォンから聞くことで、現在では誰でも実験することができる。

　ただし、暗い部屋でベットに横たわったり、アイマスクを装着してリラックスするなど、視覚を完全に遮しゃ断だんしなければ効果は認められない。脳内をうねる音によって、脳波を同調させるにもこつが要るから、リラックスしてすぐに夢見の状態に移れるわけではない。
「カシーナ」はMindPlace社が開発したブレインマシンであるが、日本人向けにカスタマイズされた製品が、二〇一五年（平成二七）に八幡書店から発売された。脳波を誘導するために視覚を利用した機器であり、装着したゴーグルが音声信号に同調して点滅することで、視覚と聴覚から脳波を夢見の状態に導くというもの。「カシーナ」には、そのためのプログラムや音楽が、あらかじめ本体に組み込まれているので、多様な脳内芸術を手軽に楽しめる。

　実は、八幡書店は「メガブレイン」を発売後、その廉価版とも言える「スターゲイザー」も売り出した。「メガブレイン」では、ゴーグルを発光させる信号のみで、外部から音楽をミックスする形を取ったが、「スターゲイザー」では信号自体を音楽に組み込むことが可能となった。その意味で「スターゲイザー」は「カシーナ」の先駆的存在だったと言える。「カシーナ」の機能については、この冊子の最初で説明しているので、ここでは「スターゲイザー」がどんな物であったか、簡単に紹介することにしよう。
　ヘンリー川原氏が開発した「スターゲイザー」は、「カシーナ」と原理はほぼ同じである。大きな違いとしては、「カシーナ」では、ゴーグルを発光させる信号が、可聴音域の上の高音部に打ち込まれているのに対し、「スターゲイザー」では可聴音域の下、低音部に打ち込まれていたという点である。
「スターゲイザー」では本体にはプログラムは組み込まれていなかった。付属のＣＤ１枚には、標準プログラムが七つ収録されていた。別売りの拡張プログラムのうち、《Dolphin Flow》では、イルカの声に導かれて、深海に潜っていくように、意識が無意識との境界域に移行していくのは感じられた。古神道とアンビエント・ミュージックをミックスした《王仁三郎言霊リミックス》や《石笛

鎮魂》もＣＤとして発売された。あらかじめ、プログラミングされている場合には、かなりダイナミックな光の残像が見られるが、慣れないうちは記憶の断片が意識をよぎる程度である。

要するに、ゴーグルの点滅が始まった途端に、脳内芸術がただちに展開するわけではない。反復と熟練がなければ、期待する結果は得られなかった。そのため、「スターゲイザー」は購入したものの、いつしか放置したままになった。「カシーナ」の発売を知って、久し振りに「スターゲイザー」を起動してみたのである。

ゴーグルを装着して、好みの音楽を「スターゲイザー」経由で流す。かなり音量が大きくないと、ゴーグルは点滅しないから、「スターゲイザー」には大音量を流し、ヘッドフォンやイヤホンの方で小さくするなど、工夫が必要である。

バイノーラル・ ビートを用いた音楽を流すと、ゴーグルの点滅はさらに複雑になった。音声自体が脳波誘導を目的としているのだから、ゴーグルの点滅によって、オレンジや緑の残像が、あわただしく点滅するうちに、脳波が容易に誘導されていくのを感じた。これを見て、これはカバラの「閃く色彩」だと直感した。あらかじめ「スターゲィザー」用にプログラミングされたものとは、また違った効果が得られそうである。

これによって、脳波は意識と無意識の境界域に誘導される。ただし、現れるイメージは瞬間的なもので、点滅する光に打ち消されてしまう。ゴーグルの点滅は意識を誘導するための「閃く色彩」であって、いったん脳波が誘導されてしまえば、カバラの「閃く色彩」は不要となるように、点滅する光はイメージの生成を阻そ害がいしかねない。「入眠時幻覚」の状態に意識が変化したら、ゴーグルを外して暗闇の中でイメージをとらえる「能動的想像」に移行すればいいのではないか。

これは「スターゲイザー」のように、複雑な配線が必要なブレインマシーンでは問題だったが、ポータブルで多様なプログラムを内蔵した「カシーナ」なら、ゴーグルをかけたまま眠ってしまっても、外して枕元に置き、不思議な夢を見るのも容易である。まあ、

これには個人差があるから、誰でもすぐに可能かどうかは分からないが。